

袋井市の前期更新世掛川層群宇刈層から産出した化石

著者	北村 孔志, 吉川 博章
雑誌名	静岡地学
巻	103
ページ	23-25
発行年	2011-06-23
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00024726

袋井市の前期更新世掛川層群宇刈層から産出した化石

北村 孔志*・吉川 博章**

1. はじめに

掛川層群は静岡県西部に分布し、海棲軟体動物化石を多産することで知られ古生物学的研究が数多く行われている。掛川層群の植物化石に関しては、黒田 (1991) や吉川・北村 (2005)、北村ほか (2010) の報告があるが宇刈層からのものはない。今回、袋井市の掛川層群宇刈層の新たな化石産地から、6科8属の植物化石を採取したので報告する。

2. 化石産地と産出層準

化石産地は県道81号線東側の仮称大日ほたる公園整備地 (図1, 図2 A, B) である。菊川市から掛川市, 袋井市, 磐田市にかけて前期更新世の掛川層群が、広く分布しており、東部地域と西部地域では岩相が若干異なる。西部地域は、下位より野部層, 大日層, 宇刈層, 油山層, 蘇我層に分けられ、それぞれは整合関係である。野部層は礫を主とし、大日層は細粒砂層を主とし軟体動物化石を多産する。宇刈層は薄いレンズ状のシルト質砂層と泥層の互層を主とし、油山層は細粒砂層～中粒砂層を主としている。蘇我層は礫層を挟み中粒砂層～粗粒砂層を主としている (白井・木宮, 1990)。

今回の露頭は、シルト質砂層と泥層の互層であることから宇刈層に相当すると考えられる。露頭で作成した柱状図を図3に示す。植物化石は材を含む泥岩層 (図3の層準1) と砂岩層 (図3の層準2) から産出した。



図1. 県道81号線東の大日ほたる公園整備地の植物化石産地。

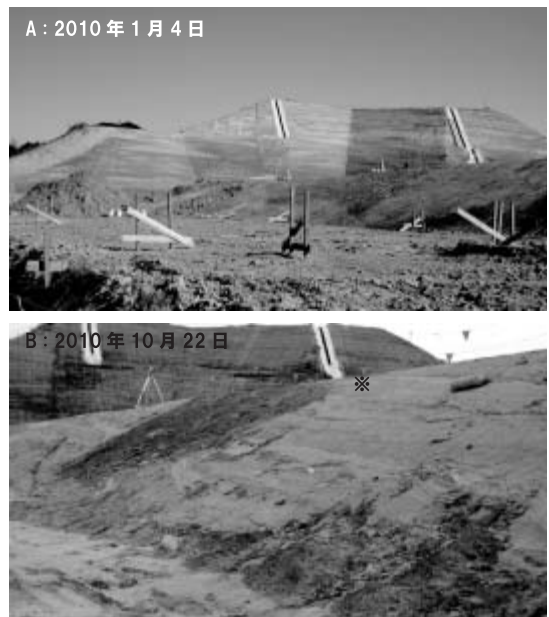


図2. A, 大日ほたる公園整備中の様子 (2010年1月4日). B, 種実化石採取時の様子 (2010年10月22日). ※図3の柱状図作成位置。

*静岡大学工学部, **豊橋市自然史博物館

表 1. 掛川層群宇刈層産出の植物化石.

学名	和名	数		
		層準1	層準2	表面採集
<i>Tsuga</i> sp.	ツガ属の一種	0	1	1
<i>Pseudotsuga subrotunda</i>	ヒメトガサワラ	1	1	0
<i>Pseudotsuga</i> ? sp.	トガサワラ属?の一種	0	0	1
<i>Picea</i> sp.	トウヒ属の一種	0	2	0
<i>Juglans megacinerea</i>	オオバタグルミ	0	3	1
<i>Davidia involucrate</i>	ハンカチノキ	0	2	8
<i>Fagus microcarpa</i>	ヒメブナ	0	1	1
<i>Stewartia monadelph</i>	ヒメシヤラ	6	7	4
<i>Magnolia</i> sp.	モクレン属の一種	0	4	1
uncertainness	不明	1	5	3

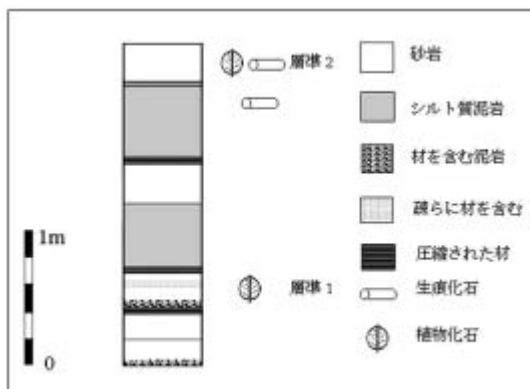


図 3. 化石産出地の柱状図.

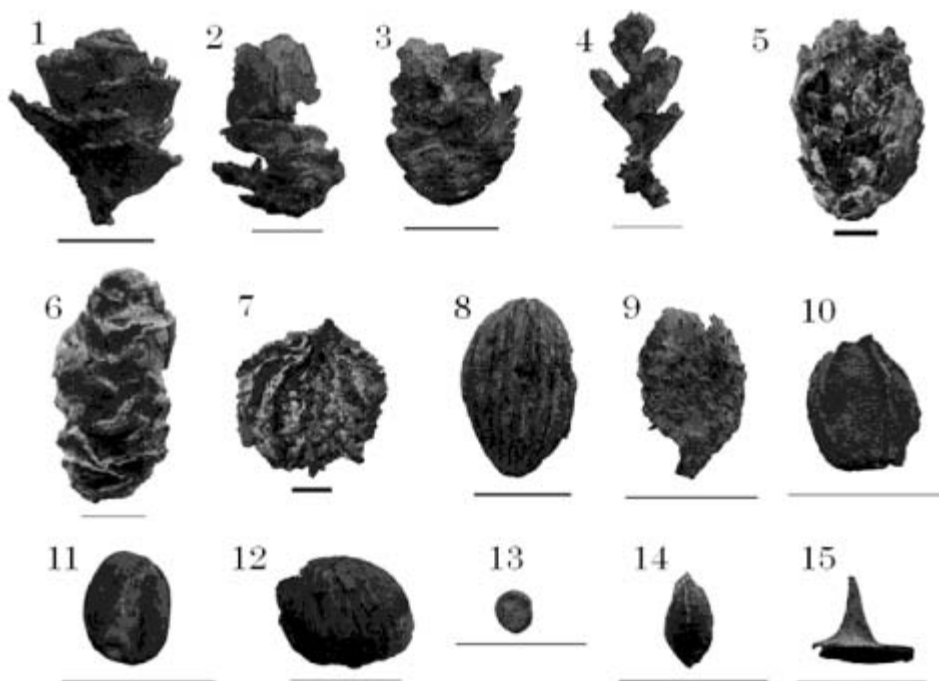


図 4. 産出した植物化石. 1, *Tsuga* sp. (ツガ属の一種の球果). 2, *Tsuga* sp. (ツガ属の一種の球果). 3, *Pseudotsuga subrotunda* (ヒメトガサワラの球果). 4, *Picea* sp. (トウヒ属の一種の球果). 5, *Pseudotsuga* ? sp. (トガサワラ属?の一種の球果). 6, *Pseudotsuga subrotunda* ? (ヒメトガサワラ?の球果). 7, *Juglans megacinerea* (オオバタグルミの堅果). 8, *Davidia involucrate* (ハンカチノキの内果皮). 9, *Fagus microcarpa* (ヒメブナの殻斗). 10, *Stewartia monadelph* (ヒメシヤラの果). 11, 12, *Magnolia* sp. (モクレン属の一種の種子). 13, 14, 不明 (種子). 15, 不明 (刺). スケールバーは各 1 cm.

3. 産出した植物化石

植物化石の大部分は斜面での表面採取による。産出したどの植物化石も摩滅し、圧縮で押しつぶされている。得られた植物化石は、6科8属であり針葉樹3属、広葉樹5属であった(表1, 図4)。今

回得られた種実化石では, *Stewartia monadelphica* (ヒメシヤラ) の蒴果と *Davidia involucrate* (ハンカチノキ) の内果皮が多かった。

4. 考察まとめ

宇刈層の堆積環境は外側陸棚とされており (Sakai, 1995), 産出した種実化石は保存が悪く, 細かな有機物の破片も多いことから, 外側陸棚まで運搬され堆積したと推定される。また, 層準1より層準2の方が種数が多く, 全体の個数も多い。層準1と層準2では材の有無など岩相に若干の違いが認められるため, 堆積様式などが異なる可能性がある。産出した種実化石のうち *Juglans megacineria* (オオバタグルミ) や *Davidia involucrate* (ハンカチノキ) は掛川層群の他の層準のものより小型であるように見えるため, 今後, より詳細な層準対比や岩相の比較も行いながら, 検討を進めていきたい。

引用文献

- 北村孔志・吉川博章・延原尊美 (2010) : 掛川市長谷の掛川層群土方層から産出した大型植物化石. 豊橋市自然史博物館研報, 20, 11-13.
- 黒田啓介 (1991) : 静岡県袋井・掛川両市から産出する鮮新世以降の植物遺体. 名古屋地学, 53, 1-11.
- Sakai, T. (1995) : Sequence stratigraphy of the Plio-Pleistocene Kakegawa Group, Shizuoka, Japan. *Memoirs of the Geological Society of Japan*, 45, 154-169.
- 白井久雄・木宮下一邦 (1990) : 掛川層群五百済凝灰岩の岩層変化とその地質的意義. 静岡大学地球科学研究報告, 6, 1-23.
- 吉川博章・北村孔志 (2005) : 静岡県掛川市杉谷の後期鮮新世掛川層群土方累層から産出した大型植物化石. 豊橋市自然史博物館研報, 15, 1-6.